

信長の野望・戦国群雄伝

嵐の時代を駆けぬけた男たちの横顔



永禄3年(1560年)異能武将列伝

上杉謙信	越後上野大名	総石高344	総兵力262	配下武将14	平均政治力53	平均戦闘力52
上杉景信					(?～1578)	謙信が上杉の名跡を継いだとき、一門として上杉を名乗った。一門の筆頭格として、武田信玄と抗争した。
直江景綱					(?～1577)	謙信の側近として、天文末年(1554)頃から内政と外交の中心として活躍。春日山城(謙信の山城)の留守居役もつとめた。
北条氏康	武蔵相模伊豆大名	総石高403	総兵力310	配下武将17	平均政治力50	平均戦闘力45
北条綱成					(1515～1587)	武勇の誉れの高い武将で、黄絹に八幡大菩薩と書いたことから「地黄八幡」と呼ばれた。氏康の死後は出家をした。
風魔小太郎					(生没年不明)	忍者の一族、風魔の首領。数々の忍術を駆使したとされるが、その実在は定かではない。関東を本拠地としていた。
里見義堯	安房大名	石高115	兵力88	配下武将4	平均政治力48	平均戦闘力44
武田信玄	甲斐信濃大名	総石高268	総兵力290	配下武将14	平均政治力70	平均戦闘力71
山県昌景					(?～1575)	「明日は瀬田(京の入り口)に旗を立てろ」と信玄が死の直前に命令したほど、信玄に信頼された武将。
高坂昌信					(1527～1578)	16歳で信玄の近習になり、25歳で侍大将になる。小諸、海津城の城代の重職を歴任、川中島の戦いでも戦功あり。
内藤昌豊					(?～1575)	武田二十四将のひとり。上野国箕輪城という、国境の要害をまかされた。信玄の死後、長篠の戦いで戦死した。
馬場信房					(?～1575)	馬場美濃守ともいう。信濃の牧野島城、三河の国古宮城、遠江の訪原城の3つの城を守った、武田軍団の中核。
真田幸隆					(1513～1574)	策略で村上義清の精鋭部隊を破り、上杉謙信との戦いでも数々の戦功をあげた。真田幸村は幸隆の孫にあたる。
山本勘助					(?～1561)	武田軍の軍師で天才的兵法家、川中島の合戦で死亡したとされるが、実在したかどうかは定かではない。
武田信繁					(1525～1561)	信玄の弟として副当主でもある。知勇を兼ねそなえた武将で、信玄も兄弟のなかでもっとも信頼した。
今川義元	駿河遠江大名	総石高239	総兵力212	配下武将11	平均政治力33	平均戦闘力32
今川氏真					(1538～1614)	父親の義元が戦死したあとに家督をついだが、平庸なため今川家を滅した。しかし、蹴マリだけは天才的だった。
畠山義綱	能登大名	石高93	兵力79	配下武将3	平均政治力48	平均戦闘力26
遊佐続光					(?～1581)	畠山七人衆のひとり。上杉謙信の能登進攻が始まると謙信につき、謙信の死後は織田信長についた裏切り者。
神保長職	越中大名	石高141	兵力96	配下武将4	平均政治力45	平均戦闘力36
姉小路良頼	飛騨大名	石高70	兵力85	配下武将3	平均政治力62	平均戦闘力47
姉小路頼綱					(1540～1587)	良頼の息子、飛騨国高山城主。1582年に国内を統一したが、豊臣秀吉との戦いに破れ降伏した。
本願寺光佐	加賀大名	石高134	兵力109	配下武将4	平均政治力49	平均戦闘力65
七里頼周					(生没年不明)	加賀国の代官だったが、1575年に信長の越前一向一揆討伐軍に破れ降伏する。本願寺光佐の信頼はあつかった。
朝倉義景	越前大名	石高175	兵力119	配下武将5	平均政治力47	平均戦闘力38
朝倉景鏡					(?～1574)	松永久秀のもとから足利義昭を脱出させ朝倉家に迎えるなど活躍したが、朝倉家滅亡の際は裏切って義景を自害させた。
斎藤義竜	美濃大名	石高186	兵力119	配下武将5	平均政治力68	平均戦闘力68
稲葉一鉄					(1515～1588)	氏家ト全、安藤守就とともに西美濃三人衆と呼ばれた。信長に降伏して斎藤竜興を倒し、のちに豊臣秀吉に仕えた。
竹中半兵衛					(1544～1579)	天才的な兵法家で、わずか10数人で稲葉山城を斎藤竜興から奪った。のちに秀吉に仕え、数々の作戦を立案した。
織田信長	尾張大名	石高199	兵力120	配下武将6	平均政治力71	平均戦闘力75
羽柴秀吉					(1536～1598)	木下藤吉郎の足軽時代から非凡な才能を発揮、羽柴秀吉を名乗る頃には織田軍の中心になっていた。
柴田勝家					(?～1583)	信長の弟である信行とともに、信長と戦ったこともある。信長の家臣となったあとは、織田軍の先鋒を必ず務めた。
丹羽長秀					(1535～1585)	子供のときから信長に仕え、秀吉、勝家とともに信長を支えた。性格は温厚で、軍事よりは内政が得意だった。

群雄割拠の時代、世は下剋上!

徳川家康	三河大名	石高137	兵力121	配下武将6	平均政治力57	平均戦闘力71
石川数正					(?～1592) 家康が今川家の人質だった頃からの家臣。桶狭間の戦いにも参加し、徳川家と織田家の同盟実現にも努力した。	
鳥居元忠					(1539～1600) 徳川軍の主な戦いにはすべて参加した強者。関ヶ原の戦いでは、石田三成の大軍を伏見城で迎え撃ち、戦死した。	
浅井長政	近江大名	石高168	兵力122	配下武将5	平均政治力33	平均戦闘力51
磯野員昌					(生没年不明) 近江国の佐和山城城主だったが、1571年に信長に降伏した。1579年、信長の怒りをかい、高野山に逃げて出家した。	
六角義賢	伊賀大名	石高112	兵力94	配下武将4	平均政治力46	平均戦闘力33
北畠具教	伊勢志摩大名	石高137	兵力103	配下武将5	平均政治力50	平均戦闘力41
北畠具房					(1547～1580) 具教の子供。北畠家が織田信雄(信長の三男)に滅ぼされたあと、河内に3年間幽閉され、解放されたあとに死亡。	
足利義輝	山城大名	石高119	兵力99	配下武将4	平均政治力56	平均戦闘力54
細川藤孝					(1534～1610) 武将にして、一流の文化人。「衆妙集」などの家集をたした歌人でもある。義昭の忠臣として、知略をつくした。	
鈴木佐太夫	紀伊大名	石高90	兵力89	配下武将3	平均政治力52	平均戦闘力63
鈴木重秀					(生没年不明) 通称は雑賀孫市で、佐太夫の子供といわれている。根来と雑賀の鉄砲隊を率いて、織田軍を苦しめた。	
三好長慶	大和摂津和泉讃岐阿波大名	総石高566	総兵力385	配下武将18	平均政治力50	平均戦闘力51
松永久秀					(1510～1577) 裏切りと暗殺はお手のもの、戦国時代の申し子といえる武将。最後は信長に背き、信貴山城の戦いで滅んだ。	
三好義興					(1511～1580) 但馬国守護。因幡に出兵して布施天神城を攻めるなど、因幡にも勢力を伸ばそうとしていた。秀吉に攻められ戦死。	
波多野秀治	丹波大名	石高109	兵力85	配下武将3	平均政治力37	平均戦闘力36
一色義直	丹波若狭大名	石高110	兵力95	配下武将4	平均政治力41	平均戦闘力53
山名豊国	因幡但馬大名	石高110	兵力97	配下武将4	平均政治力49	平均戦闘力45
山名祐豊					(?～1598) 1583年に豊臣秀吉に服属し、賤ヶ岳の戦い、小牧・長久手の戦いにも参加、朝鮮の役にも出陣した。	
赤松義祐	播磨大名	石高135	兵力99	配下武将4	平均政治力45	平均戦闘力47
尼子晴久	出雲伯耆大名	石高96	兵力115	配下武将5	平均政治力65	平均戦闘力67
山中鹿之介					(1545～1578) 尼子家のため毛利を相手に孤軍奮闘。信長や秀吉の助けをかり毛利打倒のため戦うが、ついには力つきた。	
宇喜多直家	三備大名	石高110	兵力119	配下武将5	平均政治力38	平均戦闘力37
宇喜多忠家					(生没年不明) 直家の弟。兄を助け、勢力の拡大に努めた。豊臣秀吉とも親しく、1598年に吉次の刀をもらっている。	
毛利元就	石見安芸周防長門大名	総石高336	総兵力304	配下武将15	平均政治力54	平均戦闘力55
吉川元春					(1530～1586) 元就の二男。毛利両川体制のひとりとして、兄の隆元を支えた。『太平記』の写本は、吉川本と呼ばれ有名である。	
毛利隆元					(1523～1563) 元就の長男。ふたりの弟とともに、中国地方の征覇を目指した。尼子攻撃中に安芸佐々部で急死。	
清水宗治					(1537～1582) 小早川隆景の配下として、信長の中国進軍と戦った。秀吉の水攻めに苦しみ、兵士の助命を条件に切腹した。	
小早川隆景					(1533～1597) 元就の三男。毛利両川のひとりとして、中国・四国・九州で戦った。厳島の戦いでは、水軍を率い勝利に貢献した。	
河野道宣	伊予大名	石高128	兵力95	配下武将3	平均政治力50	平均戦闘力46
河野道直					(?～1587) 河野家臣団を率いて長宗我部・三好らと戦ったが、情勢の好転はできず長宗我部元親に降伏した。	
長宗我部元親	土佐大名	石高118	兵力119	配下武将5	平均政治力45	平均戦闘力65
吉良親貞					(1541～1576) 元親の弟。一条氏の蓮池城を攻略したほか、戸波城や久礼城を奪取するなどの活躍をした。	

永禄6年 戦国勢力絵図



このシナリオの特徴は、どの勢力も天下統一を狙えるところだ。それほど、各勢力の実力は拮抗している。言い方をかえれば、どの勢力も滅亡する可能性があるのだ。この中から、初めてやる人が比較的楽にプレイで

きる勢力を選ぶとすれば、やはり武田氏だろう。武田は上杉と北条にこまれて、いつけん不利のように見えるが、軍師が6人いることを見逃してはいけない。北条や姉小路と同盟を結び、

はやめに上杉と決着をつけられ、天下統一も夢ではないだろう。14人も武將がいて平均政治力が70というのは、どの武將も優秀な証拠だ。まったく、恐ろしい勢力である。次にくる勢力としては毛利氏、3

番目は織田氏といったところだろうか。毛利は、武將が数多くいるわりには優秀な者が少ないのだが、背後に敵がいない地の利をもっている。織田は、少数精鋭で守りに入ると苦しいが、攻めて攻めまわれば活路が

見いだせるだろう。以上、3つの勢力をあげてみたが、最初に言ったとおり、どの勢力にもチャンスはある。同盟や婚姻といった外交政策も駆使して、天下統一をうけてがんばってほしい。

天正10年 戦国勢力絵図

シナリオは信長で楽しむよりも、反信長で楽しむべきシナリオなのだ。そこで、信長に対抗できる第一候補としては、毛利氏があげられる。現実にも、この当時の信長の最大の敵は毛利であった。長宗我部とまうく

条を減ぼして実力を養えば、打倒信
 長の最有力候補になれるだろう。
 信長でやるか、ほかの勢力でやる
 かはキミの自由だが、初心者ならば
 信長、ペテランならばほかの勢力、
 しかも鈴木氏を選ぶ方がいいと思うぞ。

天正10年(1582年)異能武将列伝

上杉景勝	越後大名	石高174	兵力172	配下武将7	平均政治力51	平均戦闘力48
直江兼続					(1560～1619) 1598年、米沢で三十万石を与えられたほどの重臣。家康の奥羽征討の際は、兵3万を率いて会津を転戦した。	
本庄繁長					(1539～1613) 謙信に従って川中島の戦いや関東攻略に貢献したが、武田信玄に通じた疑いから攻められたこともあった。	
北条氏政	上野武蔵相模伊豆大名	総石高582	総兵力422	配下武将23	平均政治力50	平均戦闘力46
板部岡江雪斎					(1537～1609) 真言宗の僧侶の出身といわれる武将で、1582年の家康との講和、1590年の秀吉との折衝で外交官として活躍した。	
北条氏照					(1540～1590) 北条氏の北関東戦略の主導的立場だった。秀吉の小田原攻めで、兄の氏政とともに切腹して果てた。	
大道寺政繁					(1533～1590) 氏康・氏政・氏直の三代に仕えた、北条氏の重臣。小田原攻めでは、前田利長の軍勢と戦い、破れ降伏した。	
織田信長	正二位右大臣	総石高2366	総兵力1666	配下武将89	平均政治力56	平均戦闘力57
前田利家					(1562～1614) 信長の小姓から、最後は加賀百万石の大大名となった。豊臣家五大老のひとりとして、豊臣秀頼の後見人をした。	
稲葉一鉄					(1515～1588) 斎藤竜興を裏切り、信長に仕えた。文才の豊かな武将で、信長に殺されそうになったときも文学の知識できりぬけた。	
柴田勝家					(?～1583) 織田軍の北陸方面司令官。本能寺の変のあとは秀吉と対立、賤ヶ岳の戦いで破れ、妻のお市(信長の妹)とともに自害。	
織田信忠					(1557～1582) 信長の長男。信長がもっとも頼りにした息子。本能寺の変のとき、明智光秀と二条御所で戦い、破れて自刃した。	
丹羽長秀					(1535～1585) 知将として名高い。本能寺の変のときは、大阪で長宗我部戦の準備中だった。秀吉に協力して明智光秀を倒した。	
森 蘭丸					(1565～1582) 信長の稚児として有名だが、才能ある若武者でもあった。本能寺の変では、弟たちとともに最後まで奮戦した。	
蒲生氏郷					(1556～1595) 信長の義理の息子。豪雄の武将として有名で、どんな戦いでもつねに最前線で戦った。伏見にて病死。	
滝川一益					(1525～1586) 織田軍の関東方面司令官。本能寺の変のときは、北条氏直と戦って破れ、伊勢に逃げ帰っている。	
九鬼嘉隆					(1542～1600) 志摩の海賊だったともいわれる、織田水軍の司令官。石山戦争で毛利水軍を破り、本願寺の補給路をたつた。	
浅野長政					(1547～1611) 浅野長政との戦いが初陣で、賤ヶ岳の戦いで功績をあげた。豊臣家五奉行の筆頭で、豊臣政権を支えた。	
筒井順慶					(1549～1584) 日和見主義の代表者にされているが、茶の湯に秀でた才人であった。わずか36歳で病死している。	
明智光秀					(1528～1582) 茶の湯、連歌に秀でた文化人であり、すぐれた民政家でもあった。人生の賭けに挑戦し、そして敗れた。	
斎藤利三					(1534～1582) 明智光秀の家老。山崎の戦いののち、捕らえられ斬られた。徳川家光の乳母、春日局の父親でもある。	
細川忠興					(1563～1645) 細川藤孝の息子。本能寺の変では秀吉につき、秀吉の死後は家康についた。妻は細川ガラシャである。	
羽柴秀長					(1540～1591) 秀吉の片腕として天下統一に貢献し、国政の責任者でもあった。1587年に従二位大納言に叙任されている。	
藤堂高虎					(1556～1630) 浅井長政・織田信長・豊臣秀吉・徳川家康と次々に仕えた。日光の東照宮の家康像の隣に、高虎像がある。	
羽柴秀吉					(1536～1598) 備中で本能寺の変を知り、急いで帰京。山崎の合戦で明智光秀を倒し、信長の後継者の地位を得た。	
黒田官兵衛					(1546～1604) 山本勘助と並び、大軍略家。長い間、秀吉の参謀として戦略を立てたが、関ヶ原の戦いでは東軍についた。	
宇喜多秀家					(1572～1655) 秀吉の信頼はあつく、朝鮮の役で活躍した。関ヶ原の戦いで西軍についたため、八丈島に流され、そこで病死した。	
加藤清正					(1562～1611) 秀吉の子飼いの武将として、賤ヶ岳の戦いで活躍。関ヶ原の戦いでは東軍についたが、豊臣家のため終生尽力した。	
金森長近					(1524～1608) 本能寺の変では秀吉軍に加わり、1585年には飛騨国の大名になる。茶の湯と蹴馬りを好み、千利休の弟子でもある。	
佐久間盛政					(1553～1583) 豪雄として有名な武将で、北陸の戦いで活躍した。柴田勝家の配下で、賤ヶ岳の戦いでも奮戦した。	
前田玄以					(1539～1602) 豊臣家五奉行のひとり。関ヶ原の戦いでは表面上は西軍だったが、石田三成挙兵を家康に通報している。	
福島正則					(1561～1624) 子供の頃から秀吉に仕え、賤ヶ岳の戦いでは戦功第一といわれた。関ヶ原の戦いでは、東軍の主力として戦った。	
石田三成					(1560～1600) 豊臣家の文治派の代表。加藤清正や副島正則の武断派との対立が、関ヶ原の戦いを生み、敗戦の原因ともなった。	

野望の実現は近い。天下統一か？

里見義頼	安房大名	石高115	兵力108	配下武将3	平均政治力31	平均戦闘力38
正木頼忠					(?～1622) 目立った活躍はないが、娘が家康の側室になり、息子の為春は紀州徳川家の家老になった。	
武田勝頼	信濃甲斐駿河大名	総石高401	総兵力338	配下武将17	平均政治力55	平均戦闘力55
真田昌幸					(1547～1611) 家康がもっとも恐れた武将。関ヶ原の戦いのときも、上田城の500人で徳川軍数万を、2週間も足どめした。	
真田幸村					(1567～1615) 昌幸の二男。知勇に優れた武将で大阪の陣では豊臣側につき、最後まで家康を悩ませ続けた。	
武田信勝					(1566～1582) 勝頼の長男。甲斐源氏の正統として、武田家を継ぐはずだったが、天目山の戦いで信長に破れ勝頼とともに自害。	
小山田信茂					(1539～1582) 信玄の頃からの武将だったが、信長に力を貸して武田家を滅亡においやった。しかし、信長によって殺されている。	
穴山信君					(?～1582) 武田の前線司令官だったが、家康に降伏して、織田軍を甲斐にひきいれた。本能寺の変で逃げる途中、一揆により殺害される。	
徳川家康	遠江三河大名	総石高243	総兵力240	配下武将10	平均政治力66	平均戦闘力64
本多忠勝					(1548～1610) 徳川四天王のひとり。合戦にでること50回以上の歴戦の勇士で、鹿の角を形どった兜は有名である。	
榊原康政					(1548～1606) 徳川四天王のひとり。本能寺の変のときの、家康が三河に逃げる伊賀越えにも同行している。知行地は館林十万石。	
服部半蔵					(1542～1596) 伊賀忍者の名門として家康に仕え、伊賀と甲賀の忍者を多く徳川家にひきいれ、大隠密組織の長官として活躍した。	
酒井忠次					(1527～1596) 家康の父である広忠時代からの家臣。家老としてよく家康を支え、東三河の旗頭をも命じられた。四天王のひとり。	
井伊直正					(1561～1602) 徳川四天王のひとり。関ヶ原の戦いでは島津勢と激突、島津豊久を討ち取った。また、毛利輝元との講和にも活躍。	
本多正信					(1538～1616) 1563年の三河一向一揆では家康と対立したが、その後はつねに家康の謀臣として、数々の計略をたてた。	
鈴木佐太夫	紀伊大名	石高90	兵力106	配下武将3	平均政治力59	平均戦闘力67
鈴木重秀					(生没年不明) 石山本願寺の開城後は、本願寺と信長の取次役を務め、1584年ごろには秀吉に仕えていたといわれている。	
毛利輝元	出雲伯耆三備石見安芸周防長門大名	総石高542	総兵力511	配下武将25	平均政治力53	平均戦闘力51
吉川元長					(1548～1587) 吉川元春の長男。1583年に家督を継ぎ、毛利氏の有力武将として各地を転戦した。弟の広家とともに毛利を支えた。	
吉川広家					(1561～1625) 吉川元春の三男。関ヶ原では西軍の敗北を予想し、毛利家存続のために工作した。周防岩国三万六千石の藩主。	
安国寺恵瓊					(?～1600) 外交僧として有名な臨済宗の禅僧。毛利と秀吉の講和の際にも活躍し、朝鮮の役にも従軍僧として参加している。	
小早川秀包					(1567～1601) 秀吉との講和の条件で、1583年に大阪に送られた。大阪では秀吉に目をかけられ、秀吉の養女を妻に迎えている。	
長宗我部元親	讃岐阿波土佐大名	総石高316	総兵力335	配下武将15	平均政治力42	平均戦闘力48
長宗我部信親					(1565～1585) 元親の長男。1560年に元親とともに秀吉の命令で豊後に出陣、十河存保と島津軍と戦って戦死した。	
香宗我部親泰					(1543～1593) 兄の元親を助け、四国統一戦争で活躍した。1582年、中富川合戦で十河存保を敗退させている。	
河野通直	伊予大名	石高142	兵力96	配下武将3	平均政治力36	平均戦闘力43
来島通総					(1561～1597) 1582年に河野家を裏切り、秀吉に従って水軍を指揮した。朝鮮の役では兄とともに従軍し、全羅道鳴梁で戦死。	

武将の能力表は、このように使うといいぞ。

大名の名前	治めている土地	支配地の総石高	全兵力	武将の数	全武将の平均政治力	全武将の平均戦闘力
上杉謙信	越後上野大名	総石高344	総兵力262	配下武将14	平均政治力53	平均戦闘力52
上杉景信	67	31	騎馬	No		(?~1578) 謙信が上杉の名跡を継いだとき、一門として上杉を名乗った。一門の筆頭格として、武田信玄と抗争した。
武将の名前	政治力	戦闘力	兵料	軍師	一言	

ログインが選んだ異能武将たち、有能なやつもいれば無能なやつもいるぞ。これらの武将を見つけたら、上の例を参考にして、必要な事柄を記入しよう。ここにあげた武将は、群雄伝に登場する全武将のわずか4分の1にしかすぎない。残りの武将の表も、ぜひ作ってほしい。それが完成した人こそ、真の天下人だ！

信長の野望・戦国群雄伝

嵐の時代を駆けぬけた男たちの横顔



login 新年1、2合併号特別付録②

昭和64年1月20日発行(毎月2回第1、第3金曜日発行)第8巻 第1、2合併号 通巻78号

©荒木一紀(提供ボンカラー)相馬野馬追い祭より